

学力テストの学校別結果の公表は学校の序列化を促進するのか？

：賃貸物件データを用いた検証

黒田雄太

(東北大学大学院経済学研究科)

〈要旨〉

本研究は、小学生の学力テストの学校別結果を公表することが、学校の序列化に対してどのような影響を与えるのかについて、島根県松江市内の公立小学校を対象に分析を行ったものである。島根県松江市において、2014年10月に初めて学力テストの学校別結果が公表されたことを利用し、それ以前と以後で学力テストの結果が学区内の賃貸物件の賃料に対して及ぼす影響がどのように変化したかについて、差の差法を用いて分析した。その結果、学校別結果の公表以前は学力テストの結果は家賃に対して有意な影響を及ぼさないが、学校別結果が公表以後は学力テストの結果の高い学区にある賃貸物件の家賃が有意に上昇しているが、その程度は大きくないことがわかった。また家族向け物件においては、学校別結果の公表以前から学力テスト結果の高い学区において家賃が有意に上昇している可能性があり、結果が公表されることによってさらにその傾向が強まっていると考えられる。このことから、学校別結果を公表することは学校の質と家賃の関係性を強めるが、その影響の程度はあまり小さくなく、学校の序列化には繋がらない可能性が高いことがわかった。

キーワード： 家賃, 学校の質, 学区制度, 学校の序列化, 差の差法

JEL classifications: R31, R21, I20, I24